

第1回北はりま定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

開催日時	平成22年11月1日（月）午後1時00分～3時05分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 3階ホール
出席者	委員15名、オブザーバー7名、事務局4名：委員名簿のとおり （欠席：富永委員、齋藤委員、魚谷委員）

1 西脇市長あいさつ

- 第1回の共生ビジョン懇談会にご出席いただき、心から感謝申し上げたい。来年の予算編成、施政方針等の中でも、定住自立圏をどう進めるのかというのが大きなテーマになるかと思っているところである。
- 本日のビジョン懇談会では、学識経験の委員としてご就任をお願いした兵庫県立大学大学院の中瀬先生をはじめ、各分野を代表する委員の皆様をお願いをしたところ、快くお受けいただいたことにお礼申し上げたい。
- 定住自立圏というと、広い分野からビジョンを策定するというのが基本になってくると思うので、この地域の中で、ご活躍をいただいている方にお集まりをいただかないとやっていけない会議だろう、と思っている。
- ご存知の通り、西脇と多可とはもともと一つの地域で、西脇市はもともと多可郡である。市民生活を考えても、行政の境界というのはそんなに意識せず生活されているものと思うが、境界があるのは行政のみではないかとも思っている。
- この地域にいつまでも住み続けていただける、そんな地域づくりをしていこうということになると、この定住自立圏というものをいかに確立するか、ということが大きなテーマになると思う。これまでの歴史的、地域的なつながりだけではなく、将来に向けて、西脇市と多可町が一体となって、素晴らしいふるさとづくりをしていきたいと思っている。
- ふるさとというと、私にとっては西脇市、多可町長にとっては多可町、と思われているだろうが、この二つの地域が、一つのふるさとになっていけるようにわれわれも努力をしていくのが大きな課題だろうと思っている。
- 私ども行政だけで定住自立圏が形成できるかということになると、絶対にできるものではない。市民生活そのものに関わっていることであり、地域力あるいは市民力を高めていくことによって、行政との共同作戦でこの事業を進めていくことが非常に大事であると思っている。
- 行政の立場から申し上げても、もう単独でフルセットのいろいろな施策、事業を進めるような時代ではない。行政同士がお互いに協力しあうことが大事である。さらには、行政と地域の皆さん方が互いに手を携えあって、素晴らしいふるさとをつくっていくというのが、これからの要請であろうという風にも思っている。
- そういう意味から考えても、定住自立圏構想というのは、今の時代を先取りした事業ではないかとも思うので、委員の皆様方には大変ご労苦をおかけするが、広い視点からいろいろとご意見を賜り、この定住自立圏構想のビジョン策定に向けご尽力いただ

くようお願い申し上げます。

- 今日は初めての懇談会でもあるので、この後事務局から定住自立圏構想の概要や仕組み、またこれまでの取組状況もご報告させていただきながら、定住自立圏構想が市民の皆さんにとっての課題になるように、私どもも頑張っていきたいと考えているので、どうかよろしくご指導いただくようお願い申し上げます、開会に当たってのごあいさつとさせていただきます。

2 委員等出席者の紹介

- 出席委員による自己紹介
- オブザーバー並びに事務局職員紹介

3 座長・副座長の選出

- 座長については、会議開催要領の規定に基づき、委員互選により兵庫県立大学大学院教授の中瀬 勲氏を選出。
- 副座長についても、会議開催要領の規定に基づき、中瀬座長が、西脇市多可郡医師会会長の和田良勝氏を指名。

4 議 事

(1) 報告事項

① 定住自立圏構想について

- 会議資料に基づき、事務局から説明
 - (委員) ・ 地域活性化事業債の活用ということで、国が一部負担を肩代わりするということであるが、もう少し詳しく内容を説明してほしい。
 - ・ それと、西脇市、多可町でこの事業債をこれまでに活用していたのか、それとも、これから活用をしていくのかを教えてください。
 - (事務局) ・ 地域活性化事業債について、制度自体は定住自立圏構想以前からあった。自治体の地方債、借入金であるが、事業目的に応じて様々なメニューがあり、そのうちの一つということである。
 - ・ 例えば生活機能の強化という分野で、1億円の事業を行うとすると、そのうち9,000万円をこの地域活性化事業債ということで借り入れできる。その返済のための元金、利子を含めた35%について、普通交付税措置がなされる、というものである。
 - ・ それと、定住自立圏構想に基づく事業については、共生ビジョンに記載をした内容が地域活性化事業債の対象となるので、このビジョン懇談会での意見も踏まえながら共生ビジョンを策定し、来年度以降各事業に取り組んでいくこととなる。

② 北はりま定住自立圏構想の取組状況について

- 会議資料に基づき、事務局から説明

(座 長) ・ 今、事務局から説明があった「生活機能の強化」、2番目の「結びつきやネットワークの強化」、3番目の「圏域マネジメント能力の強化」、これが今回のビジョンの主要な柱になるということである。

(2) 協議事項

① 共生ビジョン策定スケジュール及び策定体制について

○ 会議資料に基づき、事務局から説明

(座 長) ・ 事務局から共生ビジョンの策定スケジュールについて説明があったが、1月には具体的な内容を議論し、3月には素案ができている状態なので、今日もいろいろとご意見を言ってほしい。

(座 長) ・ この会議は公開か、それとも非公開か。

(事務局) ・ この懇談会については公開で、担当職員による専門部会は非公開と考えている。

(座 長) ・ それでは、われわれが希望しても専門部会には入れないのか。

(事務局) ・ 懇談会委員については、希望があれば特別公開ということで考えたい。

(委 員) ・ 推進連絡会議が原案を作り、懇談会に提示するという形になっているかと思うが、全て行政の方が進めてしまうというという構図になっているのだろうか。地域の問題がうまく吸い上げられていけばいいが、分からぬままに行政だけが先導してしまい決められてしまう、ということでは困ると思う。

・ また、予算で見れば、中心市と周辺町に4,000万円、1,000万円ということで、それだけではあまりにも少ない資金なので、どのように進めていけばよいのかとも思うが、先に地域の問題を吸い上げてビジョン案に盛り込んでもらっているのだろうか。

(事務局) ・ 本構想は、国が定める要綱に基づき推進しているが、そこには、行政で原案を作り、懇談会の場にお示しするという原則になっている。

・ 委員が言われた4,000万円、1,000万円というのはあくまで特別交付税措置の上限金額である。圏域が一体となった取組について、この金額が手当てされる、という風にお考えいただきたい。

・ また、ビジョン原案については、行政による専門部会でたたき台を作ってこの場にお示しさせていただくこととなるが、当然、懇談会の場でご意見をいただいた内容や、パブリック・コメントで意見をいただいた内容については十分に反映をしていきたいと考えている。

(委 員) ・ パブリック・コメントを求める段階では案が決まっており、もうそれ以上変えようがないかもしれないが、この場では、いくらでも変えられるということだろうか。

(座 長) ・ 今の意見に関連するが、第2回目の懇談会で専門部会の成果が出され、その時に意見がたくさん出てきた場合、修正はできるのだろうか。

(事務局) ・ 1月に第2回目の懇談会を予定しているが、2回目の懇談会の場でいき

なり原案を示すということはない。事前に原案を送付させていただき、十分に目を通していただいて、懇談会に臨んでいただきたいと考えている。

- (座長) ・ すると、2回目以前にも委員と意見交換をする時間をとるとということなのか。
- (事務局) ・ 会議の場としては1月の懇談会ということになるが、それ以前に資料を送付させていただき、それぞれの委員さんに内容をご確認いただきたいと考えている。
- (座長) ・ 資料送付ということで、それに対して委員の皆さんから様々な意見を事務局にお返しすることができる、ということだろうか。
- (事務局) ・ そのとおりである。
- (委員) ・ 推進連絡会議には委員の意見が反映されるのか、発言が許されるのか、そのあたりはどうなのだろうか。そこは、市町の職員だけの場なので、その内容については、懇談会の場の中で反映されるのか。
- (事務局) ・ 次回1月の懇談会では、形成協定の内容に係る担当課長には全て出席を求めようと考えているので、その場で具体的な内容についてご意見をいただければと考えている。
- ・ また、今日は、定住自立圏とはどのようなものであるかという説明もさせていただいたので、これを受け、個別の内容についてご意見があれば個別にお受けしたいと思っている。
 - ・ なお、推進連絡会議は両市町の企画担当課で構成しており、専門部会は、形成協定に規定する内容で、各担当課長や担当で構成するものとなっている。
 - ・ ここにいる事務局は、ビジョンや部会の取りまとめをするという役目であり、共生ビジョンに文章化をして、皆さんにお示しをするという役割である。
- (委員) ・ 協定書に「多様な地域資源の発掘と活用」というところがあるが、私は特産品クラブにも所属しており、地域の純粋な特産品を作っている。全国棚田百景にも選ばれた多可町の岩座神（いさがみ）地域については、まさに全国に向け発掘をされたものと思うが、その集落の人たちと私たちは一緒に葉わさびを作って、女性の方が栽培してそれをしょうゆ漬けにして販売したりするという活動をやっている。
- ・ しかしその地域では、婦人会がなくなり、老人会がなくなり、子ども会もなくなり、そういった現状の中で、純粋な特産品をつないでほしいという思いは持っているけれども、高齢化してしまい、「来年はもうできない」という言葉も毎年聞く。そういう地域に対して、この定住自立圏の取組を何とか活用してもらえないかなとも思っている。
 - ・ イベントなどは行政も一緒になって取り組むが、そのときの区長に当たれば、そういうイベントをすることが大変な苦勞になってしまっていて、楽しみどころか苦勞になってしまっている。そういったことも、ビジョンの中

でちょっと考えてほしいな、という思いである。

- (事務局) ・ 共生ビジョンは、次回に具体的な内容をお示しするが、西脇市、多可町それぞれの役割、責任を記載することになっている。
- ・ 例えば、農業分野であれば西脇市より多可町の方が強いとか、それぞれの得意分野を生かしながら取り組んでいきたいと考えている。
- (多可町) ・ 形成協定の中に連携項目を記載しているが、協定に記載されていないということは、多可町内だけの話だからである。
- ・ ただ、先ほどの意見については、担当課長に伝えておきたい。
- (座長) ・ 今の委員の意見はすごくいい発想だと思う。共生ビジョンの議論をする際、政党などでパーシャル連合というものがあるが、テーマによっては一緒になるということであり、棚田とその応援というのを西脇市と多可町でどう連携するのか、ということを経済省に提案していけばよい。
- ・ 次に素案の説明があるので、今のようなことをどんだんご提案いただき、連絡会議や専門部会で議論してもらうときに漏れのないよう、皆さん方から提案をいただきたい。
- (委員) ・ 素案を出されるときには、ぜひ優先順位をつけていただきたいと思う。

② 北はりま定住自立圏共生ビジョン（素案）について

○ 会議資料に基づき、事務局から説明

- (座長) ・ 素案についての説明があり、将来像についての提案もあった。病院の話や教育の話とか、みんなが住みたくなるようなものは何か、という議論と、地域の活性化をどうするのか、という議論があると思う。
- (座長) ・ 高齢化率等のデータの出所は何か。
- (事務局) ・ 国勢調査である。
- (座長) ・ 県では、平成40年に高齢化率が39.9%というデータも作っている。そのあたりのデータも県の市町振興課を通じてもらえばよい。高齢者の独居世帯などは、想像を絶するようなデータになると思う。
- (委員) ・ 先ほどの地域活性化事業債、これは借金には変わらないので、国の肩代わりが35%ということだが、大きな事業をしようと思えばやはり借金をしないとイケないということになる。そのあたりは慎重にやっていただきたい。
- (座長) ・ ビジョンの期間は5年ということであるが、5年後に、このビジョンがどううまく継続していくのか、あるいは、継続するようなマネジメントをどうするのか、ということもぜひ考えてほしい。
- ・ これからは都市間競争の時代である。推計では今後関東圏が3,000万人、関西圏が2,000万人、中京圏が1,000万人ぐらいの人口規模になっていくだろう。そうすると、関西圏の2,000万人というのをどう取り合いするかというのが、これからの都市間競争である。
- ・ 人口が減少するのは仕方がないので、この共生ビジョンというのは、西

脇多可のエリアで、これからの人口減少社会の中でまちづくりをどうするのか、というのが非常に大事なところであると思う。

- (委員) ・ われわれが3回の会議でビジョンを作っていく中で役割を考えたとき、すでに高校新人駅伝も定着してきたし、そういったイベント的なものがこの圏域で実を結んできている。
- ・ 北はりまハイランド構想を打ち上げられたときから、行政は、この地域、つまり北はりまをどうするのかということを考えてこられた。
 - ・ われわれが新たな発想を出そうとしたら、西脇は西脇で体育大会というスポーツの祭典があって、多可は多可でスポーツの祭典があって、同じことを2つやっている。
 - ・ このようなことをつなぎながらやっていけないかな、と考えたとき、やり方はいろいろあると思うが、中心市を取り巻く多可町が、西脇市と一緒に一つ的生活圏を作っていくという考え方でいいのか。
- (座長) ・ 資料を見ていると、マネジメントという言葉が何度も出てくる。それは何かというと、今あるものをいかに有効に大事に使っていくかということである。
- ・ 自治体の借金が膨らみ大変な時代であるが、今あるものをよりうまく生かして、みんなでどう使っていくのか、という時代である。それがマネジメントということであり、委員ご指摘のように、今あるものをもっと活性化させ、有効に活用していくかということであると思う。
- (委員) ・ 西脇病院が全面改築され、きれいになって、すごく心強く感じている。西脇市と一緒に地域でよかったな、ということが多可町民として感じている。
- (委員) ・ 3つの視点のうち、最後の圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野の中に、人材育成なり人材の活用ということがある。ここには、両市町合同での職員研修の実施や外部人材の積極的な活用と書いてあるが、こういう会合に、例えば、商工会の職員も一緒に研修をさせていただくというような道筋はあるのだろうか。
- (事務局) ・ テーマがあえば、実現は可能かとも思うが、今後の検討課題としたい。
- (委員) ・ 商工会には様々な団体があるが、その方たちでも参加できるのかどうか。テーマがあえばということではなく、北はりま定住自立圏を作っていくというテーマの中で、職員が研修をされるときに、各種団体からでも参加が可能かどうか、ということである。
- (座長) ・ ぜひそういう方向で懇談会から要望をして、一般の方も商工会の方も、支障がない限り参加させていただけるような方向で進めてほしい。
- (委員) ・ 共生ビジョンの素案で、4の具体的な取組内容に上がっている環境・エネルギーについて、太陽光発電の設置などに、1市1町当局の補助ということも考えていただいたらどうかと考えている。
- ・ また、加美区の農地で菜の花を栽培されているが、菜種油が燃料に変わ

るということもあり、西脇市・多可町ともに休耕田を利用し菜の花を栽培して、菜種油を作るというような体制も作ってほしいとも思っている。

- (委員) ・ 米作りや野菜作りの現状を見ていると、今農家の状況というのは非常に厳しいのでは、後継者がいないのではと感じている。
- ・ 農業が集約型になり、例えば兼業の小さな農家の方は農業から離れていっている。小さな農家は一度手をはなすと次にもう一度やろうと思ってもできない。規模とか手続きとかノウハウとか、簡単に解決しない問題があるので、そういうことを行政で集約するような、あるいは管理、あっせんをするようなシステムを考えていく必要があると思っている。
 - ・ この地域の米の味などは非常にいい。そういうことを生かしながら、将来の農業について検討をお願いしたい。
- (委員) ・ 今の西脇市の農業が果たしていつまで持つのだろうか、と思っている。
- ・ 私の地域では、最初から最後まで作業を全て自分でやっている農家はもう5、6軒しかない。そのほかの地域の、たくさんまとめてやってくださる方に作業を引き受けてもらっているようである。
 - ・ 今年の秋に、85歳の方が農作業の途中で亡くなられたのだが、その方が引き受けて耕作されている田んぼをこれから誰が耕すのだろうかと思う。機械を買う資金もない。
 - ・ 農業をしています、という家も、田植えは農協に頼み、秋はまた農協に刈ってもらおうということで、普段は水を見に行くぐらいのことである。
 - ・ 地区で農業をやっておられる75歳から80歳くらいまでの方もいずれ亡くなられるが、自治会の役員として一番苦情を受けるのは、放棄された農地の草刈りの問題であり、いつも何とかしてくれと言われる。しかし、手が回らないのが現状である。
- (座長) ・ TPPが導入されれば農業は大変なことになり、自由化するなという声もある。そのあたりの問題と、これからこの定住自立圏構想の地域をどうつくっていくのか、ということをごひ考えていきたい。
- ・ 淡路には、営農組合を株式会社でされているところがあり、農家からこの会社に発注し、会社は作業料金をもらうという、上手いやり方をされているところもある。
- (座長) ・ その他、今日は市長、町長もお見えなので、何か意見はないだろうか。
- (來住市長) ・ 今、事務局から何点かお答えをさせていただいたが、ちょっと気になる点も何点かあったので、私の方からも発言をさせていただきたい。
- ・ まず、役所の方で全て素案を作ってお示しし、素案をたたいていただくということであるが、懇談会委員は何を考えればいいのか、ということについては、何を考えていただいても結構である。ただ、基本的要件として「生活機能の強化」などの3つの要件が入っており、これは守らざるを得ないものである。
 - ・ もう一つ、多可町と西脇市は協定締結に当たり9月議会の議決をいただ

いており、協定書の中には、議会で審議をしていただいた項目が入っている。とりあえずはその項目について、具体的にどういうことを進めていくのか、というのがビジョンの策定ということになっていくであろう、と思っている。職員の研修の問題、外部人材の活用等々も、ビジョンの中に入れていった方がいいものと思う。

- ・ 太陽光発電、休耕田の活用等々についても、具体的な事業の中に入れていただければ、定住自立圏としての事業が成立するのではないかと考えている。
- ・ 地域活性化事業債については、借金には違いないが、どんな支援もなく丸々自費でやらないといけない事業もあり、こういうものを定住自立圏の事業としてしっかり押さえていけば、少なくとも 90%の起債ができ、35%が返ってくるという見返りはあるので、こうしたものについては活用をさせていただきたい。支援があるからといって無駄遣いをする気は毛頭ないので、ご理解を賜りたいと思う。

(戸田町長) ・ 今、市長がおっしゃったとおりかと思う。ご自由な発想の中でこの懇談会を進めていただければ良いと思っている。

- ・ 無駄遣いをする気はない。今の自治体にそんな余裕はどこにもない。
- ・ 一体感が持てるような地域づくりを進めていければ、と考えている。

(座長) ・ 最後になるが、先ほどの将来像について、「潤いと安らぎを感じる豊かな暮らしの空間」というキャッチフレーズであったが、「空間」というのでは少し面白くない。「まち」とか「自立圏」とか、その「空間」の部分を考えていただきたいと思う。

- ・ 今日は1回目ということで、事務局からの説明が多くなったが、次回は、さらに具体的な共生ビジョンの取り組み内容について、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

5 その他

(1) 次回の会議

- 来年1月中旬の予定。日程調整の上、委員に通知する旨を報告。

(2) その他

- 特になし。